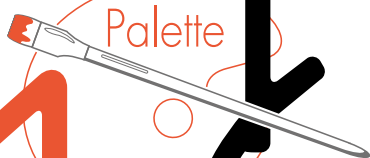


# はれと



7  
2025 July  
vol.299

## JA 岡山中期計画の取り組み

表紙テーマ「旅行の思い出」

投稿写真: 広島県世羅町「flower village 花夢の里」

9月号  
表紙写真募集中!

テーマ

「岡山の好きな場所」

詳しくはP16へ

農を担う  
米麦農家 阿部 慧司 さん  
山南地区……10ページ

今月の折り込み 2025年7月号カタログショッピングチラシ ほか



# J A岡山中期計画の取り組み

## 〔令和6年度実践概況報告〕

当J Aは、令和4年度の通常総代会で設定した「J A岡山中期計画」に基づき、同年度から令和6年度までの3力年において、その取り組みを進めてきました。

中期計画では、第35回岡山県J A大会で決議された「不断の自己改革の実践」に基づき、7つの重点取組事項を策定しています。その取組結果については、年度ごとの進捗管理や実践状況を検証し、広報誌等を通じて組合員・利用者の皆さまへ情報発信することとしています。

今月号では、3力年計画の最終年度（令和6年度）の実践概況をご報告させていただきます。



### 1. 農畜産物の生産振興



#### ①米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及・拡大および高温耐性品種の調査・研究

人工衛星による画像解析技術を活用した栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー（以下ザルビオ）」の生育ステージ予想データをもとに、登録農家に対して収穫適期を提案しました。

ザルビオの地力マップより収集したデータと土壌診断結果を照合し、施肥設計等営農指導に活用しました。

広報誌「ぱれっと」12月号にザルビオの特集記事を掲載し、令和7年2月に新規希望者向け説明会を開催しました。（2会場・15名参加）

・次年度について、ザルビオの利用方法の確立と効率的運用を図るため、画像解析データ等を活用した生育状況や、病害発生予測等について担い手経営体との情報共有を図り、米の安定多収技術の確立と普及拡大につなげることをしました。

・管内中北部の「きぬむすめ」、南部の「にこまる」を普及推進エリアとして設定し、作付推進を図り、契約面積ならびに出荷契約数量増につなげました。また、収量・出荷契約数量に応じた計画集荷に取り組みました。（「きぬむすめ」572ト、前年対比110%、「にこまる」1,931ト、前年対比112%）



・高温耐性品種「つやきらり」の栽培実証試験に取り組みました。（18ほ場・5・4畝）

・「つやきらり」について、生育・収量・食味の検証等を行い、「ヒノヒカリ」の代替品種としての要件、地域適応性について有効であるとの結果が得られ、令和6年12月に関係機関を交えた成果報告会を開催しました。（出席者37名）

|                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------|
| 「高温耐性について」                                                         |
| ・「つやきらり」は登熟良好で高温耐性を有する。<br>つやきらり品位：1等<br>ヒノヒカリ品位：2等以下（白未熟粒や未熟粒が多い） |
| 「多収性について」                                                          |
| ・つやきらり収量：630.8kg/10a<br>・ヒノヒカリ収量：532.9kg/10a<br>※97.9kg/10aの増収     |
| 「食味について」                                                           |
| 「つやきらり」「ヒノヒカリ」ともに機械判定では100点中平均71.3点の食味値で同等であった。                    |

### ②麦類の高品質生産対策

・令和6年産大麦の粗タンパク含有量の目標値10%以上に対して、実績値平均は9・8%でした。

・令和6年産小麦の粗タンパク含有量の目標値10%以上に対して、実績値平均は9・8%でした。

#### ③園芸品目の生産拡大と産地の活性化

・営農センターのT A Cリーダー、T A C指導員との情報共有を図り、次年度以降の園芸品目の作付増に向けて小玉スイカ等の栽培講習会を開催しました。

・栽培講習会等を通じて、組合員へ営農振興支援事業を周知し、推進品目の生産面積拡大につなげました。

【営農振興支援事業生産拡大実績（累計）】

|        | 面積                    | 品目                                         |
|--------|-----------------------|--------------------------------------------|
| 野菜重点品目 | 13.10ha               | キャベツ、白菜、タマネギ、夏秋なす、レタス                      |
| その他野菜  | 3.46ha                | カボチャ、ホウレンソウ、ニンジン、ニンニク、キュウリ、ピーマン、イチゴ、ブロッコリー |
| 野菜小計   | 16.56ha<br>(目標対比331%) |                                            |
| 果樹重点品目 | 2.30ha<br>(目標対比76%)   | モモ、ブドウ、レモン                                 |
| 花 卉    | 0.24ha<br>(目標対比120%)  | ハボタン、アジサイ、ケイトウ、ユーカリ、トルコギキョウ                |
| 合 計    | 19.10ha<br>(目標対比232%) |                                            |



【令和6年度納品結果】

|           |      |       |
|-----------|------|-------|
| ・ブドウ      |      |       |
| 品 種       | 本 数  | 面積換算  |
| ピオーネ      | 334本 | 2.7ha |
| シャインマスカット | 407本 | 3.9ha |
| オーロラブラック  | 86本  | 0.7ha |
| 紫 苑       | 13本  | 0.1ha |
| 合 計       | 840本 | 7.4ha |
| ・モモ       |      |       |
| 品 種       | 本 数  | 面積換算  |
| 清水白桃      | 381本 | 3.4ha |
| おかやま夢白桃   | 30本  | 0.2ha |
| 白 皇       | 41本  | 0.4ha |
| 合 計       | 452本 | 4.0ha |

・果樹苗木の早期予約注文対応により計画的な改植推進につなげました。

・営農振興支援事業を活用し、計画的な新改植推進を図り、改植面積5・4畝、新植面積2・3畝となりました。

・次年度の果樹苗木を確保するため、1月に苗木の予約注文の取りまとめを行い、主要産地での改植と生産拡大につなげました。

・各営農センターのT A C・営農指導員が連携し、直売所出荷会員ならびに女性部向けに、秋まき・春まき野菜栽培講習会を開催しました。

・秋まき・8月開催、営農センター全7会場、参加者84名

・春まき・1・2月開催、営農セン



・ター全7会場、参加者255名  
・県、岡山市、瀬戸内市とのトータルサポート中間会議、新規就農希望者受入会議へ出席し、情報共有を図りました。（計12回）

・行政と連携した各種事業に取り組み、新規就農者数41名となりました。  
（岡山市：31名、瀬戸内市：6名、吉備中央町：4名）

・トータルサポート事業を活用し、新規就農希望者の農業体験研修を実施することが決まりました。  
（瀬戸内市：ブドウ1名）

・トータルサポート事業により、新規就農者を確保しました。（西大寺地区：果樹2名、藤田地区：野菜1名、高松地区：果樹1名）

・令和7年4月就農に向けてトータルサポート事業の実務研修を実施しました。（一宮地区：モモ2名、津高地区：ブドウ1名、小串地区：露地野菜1名）

・令和6年度も、ぶどう農業塾の受講生に対し、市場出荷ならびに直売所への出荷誘導を図りました。（もも農業塾卒業生：直売所出荷2名、ぶどう農業塾卒業生：市場出荷9名、直売所出荷4名）  
・令和7年度農業塾の受講生募集を行い、もも農業塾4名、ぶどう

農業塾15名の受講生を確保し、1月より講義を開始しました。



④和牛繁殖経営の安定

・関係機関と年間9日同行し、「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。年間出荷頭数298頭のうち、37頭の「おかやま四ツ☆子牛」を市場へ出荷しました。（出荷率12・4％）

⑤大規模農家の法人化支援と集落営農組織の運営支援

・農業経営セミナーを実施しました。

・令和6年産施設なす（備南）の期間相対取引による値決め販売を行い、有利販売につなげました。  
出荷量：37・7ト（前年対比121％）※3月末現在  
・次年度の⑥青果物の有利販売と重点取引市場8社と新たに広島青果を重点市場に加え、連携強化に向けた販売計画を策定しました。

・市場出荷計：野菜1・600・000千円（前年実績対比105％）、果実1・600・000千円（前年実績対比120％）  
・需要期に合わせて重点市場への冷蔵シャインマスカットの計画出荷を行いました。

【冷蔵シャインマスカット出荷実績】  
市場出荷計：3・57ト（前年対比106％）

【ブドウ出荷実績】※3月末現在  
市場出荷計（全農への出荷を含む）：800ト（前年対比97％）

・販売戦略の一環として、毎月2回の産地情報ならび市場情勢を産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者からの情報を取りまとめ、情報共有を図ることで有利販売につなげました。

・業務用一次加工品の「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」「レモン

（4会場：48名）  
・集落営農組織に対して新規作物（抑制南瓜）の作付提案を行いました。（10ルア）

2.販売戦略の強化と販売体制づくり

農畜産物販売高103億円の確保

・令和6年産米の概算金の提示と米価高騰に伴う実需者との価格交渉を行い、令和6年産米の計画集荷に取り組みました。

【令和6年産米集荷実績】

|              |                  |         |
|--------------|------------------|---------|
| 《うるち玄米（早生）》  |                  |         |
| 「コシヒカリ」      | 6,604.0 俵（前年対比   | 91.9％）  |
| 「あきたこまち」     | 1,103.0 俵（前年対比   | 80.1％）  |
| 《うるち玄米（中生）》  |                  |         |
| 「きぬむすめ」      | 9,536.5 俵（前年対比   | 111.8％） |
| 「ヒノヒカリ」      | 20,893.0 俵（前年対比  | 77.7％）  |
| 「にこまる」       | 31,936.0 俵（前年対比  | 113.2％） |
| 《うるち玄米（晩生）》  |                  |         |
| 「朝日」         | 28,153.5 俵（前年対比  | 84.4％）  |
| 「アケボノ」       | 81,323.5 俵（前年対比  | 84.6％）  |
| 《うるち玄米（その他）》 |                  |         |
| 「つやきらり」他     | 785.5 俵（前年対比     | 92.8％）  |
| 合 計          | 180,335.0 俵（前年対比 | 89.0％）  |

・令和6年産米の米価高騰にともない、集荷率向上を目的に新たな販売の取り組みとして「買取契約販売（里海米アケボノ）」を開始しました。  
【販売実績】  
取扱数量2・190・5俵  
販売高56・280千円  
・JA岡山米の安定取引と米価アップを目指して情報収集を行うとともに、実需者との結び付き強化のための商談を行いました。（計53回）  
・消費者直接販売の取引拡大に取り組みました。  
（令和6年産米：8・706・5俵、前年対比229％）  
・JA岡山米の消費拡大に向けて、食味ランキング特A取得の「きぬむすめ」、高温耐性を備えた「にこまる」について、農産物直売所で新米フェア等を開催し、販売促進PRを行いました。  
・重点取引市場8社（東京青果、東京シティ青果、横浜丸中青果、京都青果合同、大果大阪青果、大阪中央青果、岡山丸果、岡山大同青果）との連携強化を図り青果物の有利販売に努めました。  
総合計：2・853・071千円（前年比108％）

・農産物直売所新規会員ならびに委託輸送会員の増員を図るため、広報誌「ぱれっと」へ会員募集を掲載し組合員への情報発信を行いました。

3.営農指導体制の充実

TAC指導体制の充実

・毎月TACリーダー会議を開催し、本所と営農センターとの営農指導にかかる情報共有と連携を図りました。

・全農と連携し、肥料・農薬メーカーとの同行訪問（商品紹介等）を行い、担い手農家等への情報提供を行いました。（7営農センター403件：前年対比134％）  
・各営農センターでTAC指導員が取組実践課題を取りまとめ、実践報告会を開催しました。

・担い手サポートセンターと連携し、大型農家、担い手経営体への農業経営相談ならびに法人化に向けての支援を行いました。（43経営体）  
・営農指導の強化のため、本所指導課職員（3名）を派遣し、営農センターの新任TAC指導員ならびに園芸担当者との同行訪問により実践的な指導を行いました。

・令和6年産米の米価高騰にともない、集荷率向上を目的に新たな販売の取り組みとして「買取契約販売（里海米アケボノ）」を開始しました。

【販売実績】

取扱数量2・190・5俵  
販売高56・280千円  
・JA岡山米の安定取引と米価アップを目指して情報収集を行うとともに、実需者との結び付き強化のための商談を行いました。（計53回）  
・消費者直接販売の取引拡大に取り組みました。

（令和6年産米：8・706・5俵、前年対比229％）  
・JA岡山米の消費拡大に向けて、食味ランキング特A取得の「きぬむすめ」、高温耐性を備えた「にこまる」について、農産物直売所で新米フェア等を開催し、販売促進PRを行いました。  
・重点取引市場8社（東京青果、東京シティ青果、横浜丸中青果、京都青果合同、大果大阪青果、大阪中央青果、岡山丸果、岡山大同青果）との連携強化を図り青果物の有利販売に努めました。  
総合計：2・853・071千円（前年比108％）

・営農センターの新任職員向けに営農基礎知識の研修を行いました。（計6回：延71名参加）  
・JAグループがすすめる「よりよい営農活動」の実践と人材育成に向けて、GH（グリーンハーベスター）農場評価員養成講習会に参加し、営農指導のスキルアップに取り組み、参加者全員がGH農場評価員資格を取得しました。（15回開催計8名：営農センター7名・本所1名）

4.食農教育活動を通じた地域コミュニティの活性化

農業体験学習・親子料理教室の開催

・食農教育イベント「家族でチャレンジャーデイキャンプ」を開催しました。（32名参加：野菜栽培体験、食農クイズ等）  
・女性部との連携による「ちやぐりんフェスタ」を開催しました。（14会場：390名参加：工作、野菜栽培、料理等）

## 5. 総合事業を通じた生活インフラ

### (生活基盤)機能の発揮

#### ① 組合員健康診断の実施

・巡回人間ドックや動脈硬化症健診を中心とした組合員健康診断の実施に当たり、支所等でポスター掲示によって受診者を募り、各地区において健診を実施することで、組合員の疾病の早期発見等の健康増進活動に取り組みました。(28会場・857名受診)

#### ② 税務・ローン・年金相談会・相続セミナーの開催

・税務相談会を実施しました。(9会場・14組)

・市場の金利動向および顧客ニーズに寄り添うため、住宅ローン借換キャンペーンにて優遇金利設定を実施しました。

・住宅ローン相談会としての単独開催ではなく、保障見直し相談会等を同時開催し、利用者満足度の向上を図りました。

・組合員、JA利用者からの公的年金制度への相談について、社会保険労務士へ直接相談が実施できる年金相談会を実施しました。(25会場・相談件数79件)

#### ③ ミニデイサービス・サロン・「みんなのお家」の開催

・「JA岡山助け合いの会かがやき」との連携により各地域でミニデイサービス・サロン等を開催し、「JA健康寿命100歳プロジェクト」を実践するとともに、高齢者の生きがいと交流の場を提供することで高齢者支援を行いました。(ミニデイサービス・10回 利用者・189名(協力会員32名)、サロン・71回 利用者・946名(協力会員228名)、みんなのお家・33回 利用者・403名(協力会員127名))

## 6. 支所等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

### 地域独自イベントの開催、支所ふれあい旅行の実施

・地域独自イベントについては、女性部との連携によるちやぐりんフェスタの開催や、支所・営農センターだよりの発行、地域との連携による農業体験など、年間を通じてくらしの活動の実践に取り組みました。

・支所を拠点とした年金友の会親睦旅行ではおすすめコースを提案し、宿泊プラン1件を含む36件を

実施しました。また、女性部活動ではニーズに応えながら満足度の高い研修旅行など29件を実施しました。

## 7. 正・准組合員とのメンバーシップの強化

#### ① 女性部・フレッシュミズの活動紹介や加入促進

・地域内交流会を通じて、米の消費拡大につながる米粉の活用や地産地消の大切さについて情報を共有し、女性部内の交流を図ることで、女性部の活性化に取り組みました。(女性部20支部・2,162名(うちフレッシュミズ4支部・42名))

・フレッシュミズ交流会の開催や広報誌「ぱれっと」、ならびにSNSの活用による食農教育を中心とした活動紹介を行うことにより、フレッシュミズ活動への理解を深め加入促進を行いました。

#### ② 広報誌「ぱれっと」およびホームページなどによるJAくらしの活動の紹介

・毎月編集検討会議を実施し、誌面の充実を図りました。

・「笑味ちゃん天気予報」に出演いただいた生産者や農産物を使用した料理のレシピ動画、地域農

産物やJAのイベント情報等を、インスタグラムで134件投稿しました。

#### ③ 女性参画に対する理解促進活動の実施

・「男女共同参画のつどい in 岡山」を開催し、男女共同参画についての理解を深め、意識の醸成と定着を図りました。



©みんなのよい食プロジェクト



# 地域に貢献し農地を守り、地元農家が農業を続けられる環境を作りたい

## 阿部 慧司さん

山南地区：米麦農家

「あべ けいじ」平成3年生まれ。  
藤田ライス株式会社代表取締役。岡山市中区・東区・瀬戸内市で約340筆の農地を管理する。  
東水田作経営者会議、西大寺新農業経営者クラブに所属。  
また、消防団など地域活動に積極的に参加している。  
趣味は、米づくり・麦づくり。座右の銘は「継続は力なり」



5月14日、山南地区の阿部慧司さんにお話を伺いました。

## 大規模農業経営に興味を持つ

―就農したきっかけは

山南地区は昔から米麦の生産が盛んで、祖父がこの地で米麦（1・5畝）と酪農を営んでおり、小学校の頃から農作業を手伝っていました。

自分も農業をしてみたいと思い農業高校を卒業後、就農して祖父と一緒に農業をしているうちに、米麦で収益を上げるためには、規模拡大と作業の効率化が不可欠だと考えました。そこで大規模農業経営に興味を持ち、農地を借り大型農業機械を導入して、徐々に耕作面積を拡大して



「農地と農業を守りたい」と話す阿部さん

いきました。

―農業を始めてからは

どこの地域にもあると思いますが後継者不足や、生産コストの増加などで農業経営を継続できなくなり、耕作放棄地が増えて農地が荒れていくのを見るのは辛いので、地域の農業を守るため、農地を借りて請け負う耕作をしてきました。

ただ、すべて請け負うのではなく、高齢になってもできる作業は自分でしてもらって、農家の方に1年でも長く農業を続けることができるように、高齢農家の営農を手助けすることで農家の方にも喜んでいただいています。就農してから15年目で、4年前に法人化しました。現在は、水稻が6品種で67畝、麦は3品種で53畝を作付けしています。その他に、田植えや刈り取りの受託作業が米と麦を合わせて22畝あり、育苗・ドローン防除も請け負っています。

―苦労すること・楽しいこと

播種や収穫などメインの作業に、天候を考慮して作業工程を組み立て

ていくのが大変です。限られた期間でいかに効率よく農機具を稼働させ、ほ場で作業するかが決め手になります。それに伴って農業機械を増やして、従業員に的確な指示を与える事にも苦労します。

また、農地を借りた以上、きれいに作りたいという思いがあるので「几帳面にやってるな」とか「畔もよく管理してるね」と言われると嬉しいし、やりがいを感じます。

## 水田活用率200%

―今後の抱負は

耕作面積100畝、米と麦の二毛作で、作付けの面積を200畝にして、水田活用率を200%までにしたいと思っています。

さらに、今年から、4月の下旬に小麦の追肥をする作業を請け負うことにしました。実肥の施肥は高齢者には大変な作業ですが、高品質な麦を作るには重要なことなので、地域貢献のため従業員と一丸となって頑張ります。

聞き手…JA岡山広報担当



作付けに向け、畔を整備



大型農業機械を使って乾田直播作業



## 野菜（ニンジン）

発芽まで乾燥  
させないことが  
重要です



営農部指導課  
岸野 真美

梅雨の間は日照が少なく雨が続き  
ますが、梅雨が明けると一転して強  
い日差しが照り付け、本格的な夏の  
到来です。一気に気温が高くなるの  
で、熱中症等に気を付けて日中を避  
け、朝夕に農作業を行いましょう。

### ●ニンジンの栽培について

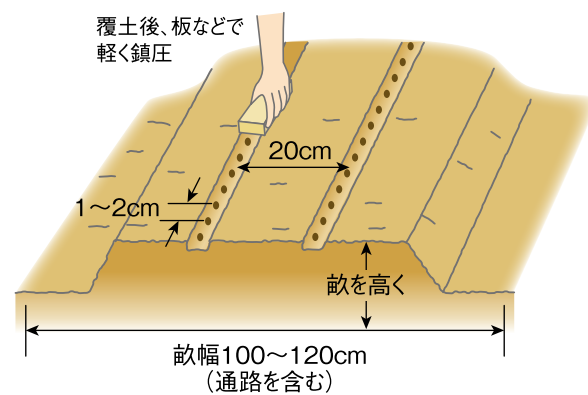
ニンジンには食卓には欠かせない栄  
養価の高い緑黄色野菜です。西洋ニ  
ンジンにはカロテンが多く、金時人参  
の赤色はリコピンが多く含まれます。  
近年はカロテンとリコピンの両方を  
多く含む品種も育成されています。  
また、プランターでも栽培できる  
ミニニンジンは、根長が10cmほどで、  
種まきから70〜90日で収穫できます。  
自家菜園で掘りたてのニンジンは  
香りが良くて格別の味わいです。ぜ  
ひ挑戦してみしましょう。  
ニンジンのまき時は品種にもより  
ますが7月下旬から8月中下旬にな  
ります。ニンジンは発芽に時間がか

かり、土壌環境の影響を受けやすい  
ので、土づくりを早いうちから始め  
ておきましょう。

### ●畑の準備

種まきの2週間前には10平方以  
たり堆肥約30kg、苦土セルカ2号を  
1kg、JA岡山専用有機肥料を1.5kg  
施用し、深く耕して畝を作ります。  
畝幅（通路を含む）は100〜120  
cmで条間を20cm取り、2条のまき溝  
の畝を作ります。  
深く耕すことが難しい場合は水は  
けの悪い場合は、畝をできるだけ  
高く作りましょう（資料1）。  
ニンジンがまた根（資料3）になら  
ないように、堆肥は必ず完熟堆肥を  
用い、前作の野菜の根などは取り除き、  
細かくふかふかの土づくりに努めま  
しょう。

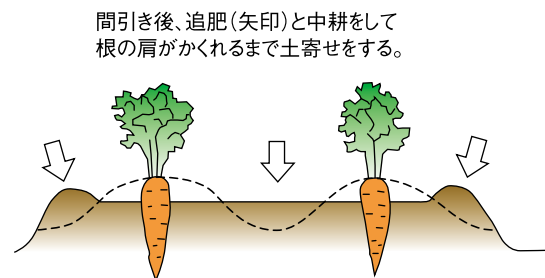
### 資料1 畝立てと種まき



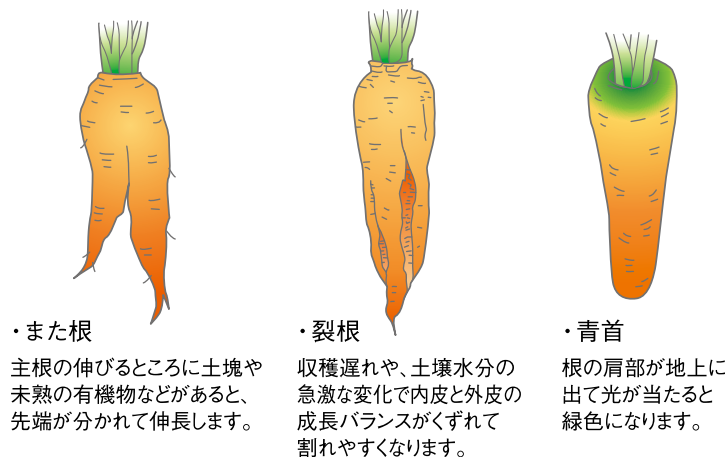
### ●種まきと発芽対策

ニンジンの発芽適温は15〜25℃で、  
他の野菜よりも発芽までに時間がか  
かります。発芽するまでの7〜10日  
ほどの間に土が乾くと発芽しません。  
降雨の後か、まき溝へたつぷりと灌  
水して土を十分に湿らせてから種ま  
きをします。  
種は一定の深さのまき溝を切って、  
1〜2cmの間隔ですじまします。  
覆土は0.5cm程度に薄く行い、畝の  
背や板で軽く押さえ、土と種を密着  
させることで吸水を安定させます。  
かける土などが厚すぎると発芽が  
悪くなるので、できるだけ薄くし、  
その上に乾燥防止のためみみ殻をふ  
るか、芽出しシートや寒冷紗等を掛  
け乾燥防止に気を付けます。途中で  
乾かないように、灌水は深くまで十  
分に湿るようにたっぷりと与えます。

### 資料2 追肥と土寄せ



### 資料3 ニンジンの生理障害



### ●主な管理

本葉2〜3枚のころと、本葉5〜  
6枚のころに2回に分けて間引きを  
し、最終の株間は10〜15cm程度と  
します（株間が広いほど早く太る）。  
2回目の間引きの後、条間や畝の  
肩に追肥を10平方以あたり化成肥料  
30g程度施用し、土の表面を軽  
く中耕します。さらに、株元に土寄  
せて（資料2）青首にならないよう  
にします（資料3）。

### ●収穫

短根種は90〜120日、長根種は  
120〜140日くらいで収穫適期  
になります。収穫が遅れると、根が  
割れる裂根（資料3）が多くなるので、  
早めに収穫します。

## 花き（ダンゴムシ・ナメクジ類）

こんな生き物  
にも気をつけ  
ましょう…



営農部指導課  
中川 雄一

### ●ダンゴムシ

触ると丸くなってコロコロ転がり、  
小さな子どもたちの遊び相手になるこ  
ともあるダンゴムシ、ところが油断で  
きない害虫なのです。

### ○生態と被害（資料4）

正式には「オカダンゴムシ」といい、  
明治時代に日本にきたヨーロッパ原産  
と考えられる甲殻類です。  
明るいとこは苦手、夜と朝方に  
活動し、昼間は落ち葉の下や植木鉢の  
下など、湿った物陰に潜んでいます。  
湿度が上がると活発になるようです。  
孵化から数カ月で産卵するようになり、  
寿命は2〜4年ほど。

植物質・動物質問わず腐敗の進んだ  
有機物を食べますから、ダンゴムシが  
増えないようにするには畑や花壇にそ  
うした有機物を残さないように掃除し  
ておくことも一つの対策です。油断し  
て大繁殖すると、夜の間に花や野菜の  
茎に上って食害します。柔らかい品種  
の茎、花びらなどが好まれるよう、で、  
たくさん落ち葉が積もっているとその  
陰などは要注意です。クリスマススロ  
ーズの茎がかじり倒されたこと、マリ  
ーゴールドの苗が大きくならないと思  
っていたら、毎晩隣の芝の中からダン  
ゴムシの群れが襲撃していたなどとい  
うことがあります（資料5）。

### ○対策

潜みやすい石やブロックなどを少な  
くし、枯れ葉などの残渣をこまめに片  
づけること、枯れ葉や花弁などはエサ

### 資料4 ダンゴムシの好む落ち葉の庭

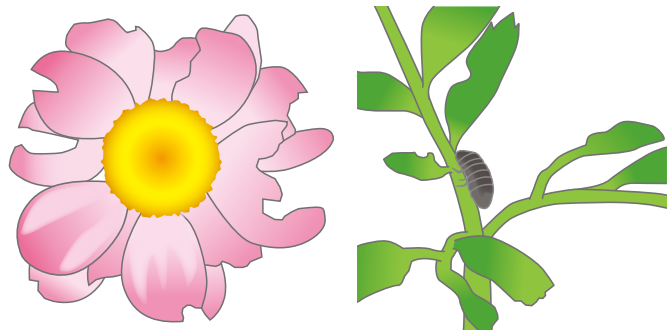


落ち葉のそばにはキクやクリスマスローズの若葉が…（左）  
落ち葉を取ると素早く物陰へ（右）

### ●ナメクジ類

やはり夜行性で、花や野菜をよく食  
べるナメクジ、湿度が高いとかなり高  
いところまで登ってかじっていること  
があります。ナスの茎や果実など、ケ  
ムシが喰い込んだのかと思うほどに穴  
くちのポイントです（餌なしでもよく落  
ちます）。  
空き瓶や空き缶の口を全開にして、  
少量の野菜くずなどを入れ、ダンゴム  
シが多そうな日陰に埋めておくと中に  
落ちて意外とたくさん捕まります。瓶  
などの口を地表面と同じ高さにしてお  
くのがポイントです（餌なしでもよく落  
ちます）。

### 資料5 ダンゴムシにかじられた花びら、 右はマリーゴールドに上って食事中



### 資料6 ダンゴムシ用空き瓶の落とし穴



瓶のふちと地表面を  
同じ高さに  
落ちたら這い上がれません

ラゴは比較的水で劣化しにくいとい  
うのですが、誘引剤はできるだけ水  
をかけないように心がけましょう。

### ●ウスカワマイマイ

場所によっては半透明のまだらに見  
える小さな巻貝がたくさん発生して食  
害することがあります。

大きくなっても2cm程度の淡い黄褐色  
で、明るい草原などの環境を好むので、  
畑や転換田の農作物を食害します。湿  
った環境を好むことや夜行性であること  
など、ナメクジ類と共通で、昼間は葉の陰  
や落ち葉の下などに隠れています。  
土中で越冬し、春に産卵を始め、5月  
ごろから幼貝が発生、半年後には産卵す  
るようになります。  
対策はナメクジ類と共通です。住みに  
くい環境づくりと駆除、手で処理した場  
合は手をよく洗っておきましょう。



# 果樹（ブドウ・モモ）

基本を思い返し  
危機管理意識を  
高めましょう



営農部指導課  
小野 智寛

今月の主な作業はブドウの袋掛け・モモの収穫・柿の最終摘果・ミカンの摘果・追肥の施用・梅への礼肥施用などがあります。例年中・下旬ごろには梅雨明けとなり、夏季の高温乾燥期に入ります。急激な天候の変化で樹勢や果実品質の低下が懸念されますので、日照や降雨の状況に気を配り、敷きわら・敷草の実施、また晴天が続く場合は、灌水を行うなど環境の変化を軽減するよう柔軟な対処を心掛けましょう。近年は、夏季の異常気象が果実生産に影響を及ぼしているのも、もう一度、基本を思い返し、各自の危機管理意識を高めることが重要となります。

## ●ブドウの管理

### ・結果量調節と枝管理

簡易被覆栽培（トンネル栽培）のピーオーネは今月中旬から果粒がつまみでみると柔らかくなっている果粒軟化期を迎え、着色が始まります。この時期、果粒へ急速に糖分が蓄積されますが、枝の本数や樹勢に対して着果量が多すぎると糖度が上がらないことや、着色が進まないなどの問題がでてきます。果粒軟化期までに5本の新梢に3房程度の着果量となるように房を落して調節しましょう。まだ枝が伸びている場合は、副梢や新梢の先端を切除しま

す（資料7）。袋掛けは、直前に農薬を散布して、病害虫を予防した状況で行います。農薬散布は房に掛け過ぎると果粉が流れ落ちたり、房汚れの原因になるので枝葉を中心に薬剤散布を行います。袋掛けから収穫までの間は、果実の成熟が進むにつれてカラスによる鳥害が発生しやすくなります。実際に被害が出た場合には、防鳥ネットの設置や、テグス糸を張るなどの対策を行いましょう。最近ではテグス糸の代わりにミシン糸を張ることで、秋以降の糸の回収を楽にしている事例も見受けられますので参考してみてください。

## ●モモの管理

### ・新梢管理

モモでは、梅雨期後半に樹幹内部が薄暗くなり光を十分に受けること

ができている園地が見られます。木漏れ日が無いような薄暗い樹では果実の品質が低下します。そのような樹では樹幹中心部に天に向かって真つすぐ伸びる1拵以上の徒長枝を数本切り取り、樹幹内部に光が入るようにしましょう（資料8）。ただ切るときに徒長枝を基から切るのではなく、10拵程度残し、直射日光が太い枝に当たらないようにしてあげましょう。また、収穫直前に枝を切ることは果実の糖度が下がるということもありますので、収穫3週間前までが望ましいです。

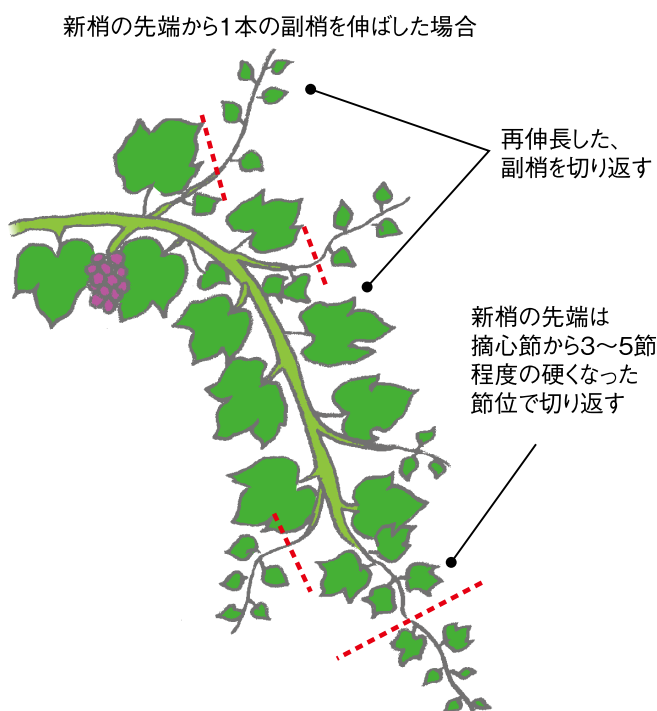
### ・収穫

近年収穫は早まる傾向にあります。収穫適期を見逃さないように気を付けましょう。収穫は地域によって異なりますが、早いところでは加納岩白桃は6月下

旬から、白鳳は7月上旬から、清水白桃は7月中旬から収穫始めとなります。収穫は主枝・亜主枝の頂上部付近や日当たりの良いところから始まり、日当たりの劣る樹冠内部に向かって進んでいきます。収穫時期の目安はモモの先端から中央部の緑色が薄れ、地肌が淡黄色になったところです。完熟果を収穫する場合は地肌全体が白色になったことです。1本の樹で7〜10日程度の収穫幅がありますが、天候によっては一気に果実の熟れが進むこともありますので注意が必要です。

果実鮮度は果実温度が大きく影響します。早朝の果実温度が低い時間帯に収穫すると、日持ちが良く貯蔵性が高まります。

## 資料7 果粒軟化直前の枝葉管理例



## 資料8 モモの木漏れ日の例







## 作り方

- ①カボチャの種とわたをスプーンでこそげ取り、皮がついたまま耐熱容器にのせたら、ふんわりラップをかけて500Wのレンジで10分加熱する。  
かたい部分が残っていれば追加で加熱する。
- ②ラップを外した状態で触れる程度まで冷ましたら皮を取りのぞき、溶かしバター、砂糖、塩を入れてなめらかになるまでしっかり混ぜる。
- ③卵黄を加えて再度しっかりと混ぜたら、絞り袋やスプーンで成形する。
- ④200℃で予熱したオーブンまたはトースターで10分焼く。
- ⑤お好みのナッツや黒ごまをトッピングしたら完成！



JA 共済の地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI

## JA岡山農産物レシピ

おやつにもお弁当にも！

スイート  
パンプキン

## ポイント

カボチャを使った簡単スイーツをご紹介します。

たくさん作って冷凍OK！

凍ったままお弁当に詰めるだけ。

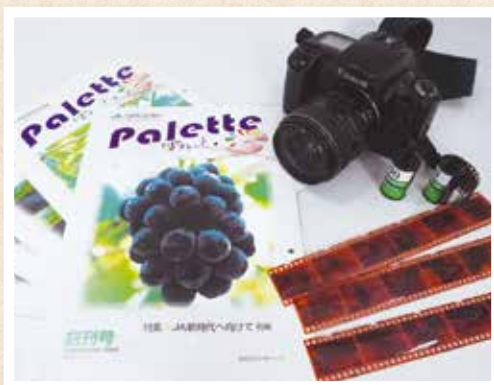


## 材料 (10個分)

カボチャ .....  
皮、種、わた付きで約450g(正味250g)  
溶かした有塩バター ..... 10g  
砂糖 ..... 25g  
塩※ ..... 1つまみ  
※無塩バターを使用する場合は2つまみ  
卵黄 ..... 1個分  
ナッツや黒ごまなどのトッピング……お好みで

「ぱれっと」300号を前に  
25年の歩みとこれから

平成12年7月に岡山市内の14JAが合併し25周年を迎えました。そして広報誌「ぱれっと」創刊号が発刊され今月が299号。来月は300号を発行することになります。



実は、創刊号から約1年半、広報担当で「ぱれっと」の取材・編集に携わっていました。あれから25年まさか、記念すべき300号発行の時にまた担当するとは思っていませんでした。思い出すとあの頃は、24枚撮りの35mmフィルムを何本も持って取材に出て、現像した写真を見るとガッカリということがよくありました(今では現像って何?ですね)。

デジカメになった今でも、「写真は一枚入魂」でこれからも良い記事を届けます。また、取材のご協力もよろしくお願いします。

編集担当 難波 昭浩

各種媒体で情報発信

オンラインショップ  
はなやか  
花野  
オンライン

Instagram



JAOKAYAMA.OFFICIAL

広報誌「ぱれっと」  
意味

水彩画や油絵を描くときに絵具をまぜあわせて色をつくる板のこと。  
特色ある地域の様々な情報をうまく調和させながら、地域と共に歩むという願いがこめられています。